



どんな財政運営に取り組むか 基金と町債の今後

およそ1年にわたり続けてきた本連載もいよいよ最終回です。これまでの議論を踏まえ、今後御代田町はどんな財政運営をしていくべきか考えてみます。

基金を減らさず

借金を増やさない

いきなり結論となりますが、基本方針はこれまで町長選挙等で申し上げてきた通り、私の任期末直後の令和8年度末において、基金残高は4年前の令和4年度末の水準を下回らない、町債残高は同じく、令和4年度末の水準を上回らないことです。

給食費の無償化や道路整備予算の大幅増額に舵を切ったことから、町内では基金についての誤解が広がっていたようです。「現町政は過去の基金を取り崩して大盤振る舞いをやっている」といったものです。しかし、これまでこの連載

を読んできていただいた皆さんには明らかな通り、私の就任後最初の4年間で基金は10億円以上増やし、町債は16億円近く減らしてきました。さらに令和5年度の1年間で基金は7億円以上増やし、町債は4億円近く減らすことができました。一昨年お約束した「基金を減らさず、町債を増やさない」目標から11億円以上余裕があることとなります。

運用で財政健全化向上

ただしお金が貯まればそれでいい、というものではありません。役場がお預かりしているお金は、町民の皆さんのお役に立つためのものです。4月以降いよいよ都市計画道路東原西軽井沢線が着工となります。その先には、しなの鉄道御代田駅や周辺の整備が待っています。コロナ禍級の災厄が起きれば大きな財政出動が必要となります。また、気候変動を前提とすると

農業等の産業を守るための施策にも大きなお金を費やすことになるでしょう。

したがって、そういった大きなお金が必要になる時期まで、基金を守り育てていくことが重要です。金利上昇局面において、債券等が安全かつ有利な運用となります。特に御代田小沼水道等一部の特別会計の基金は一般会計等からの繰入が不自由であり、単体でのケアが必要です。今後、専門人材等からの意見も聞きながら、健全な運用に努めてまいります。途中で現金が足りなくなることのないよう、どのくらいの現金があれば余裕なのかも検討します。

また現在、一部役場が借りているお金の金利よりも定期預金・債券等の金利のほうが高い現象が起きています（逆ザヤと言います）。災害復旧や大型事業により今後は

起債が増える状況ではありますが、無理に繰上償還するより手元で運用する判断もあり得ると思います。

今回の結論

基金は無理せず育てる

最終回までお読みいただきまことにありがとうございます。とつきにくいテーマを読みやすく書くことに腐心したつもりです。町の財政という町政の根っこについて皆さまのご理解が少しでも広がったなら幸いです。



過去の講座は
こちらより
ご覧いただけます